

見守りは「つながり」

大磯町内では様々な方が地域の一員として見守り活動をしています。自治会の役員の方やグループ、PTAのこどもSOSや見守りサポ、民生委員児童委員の方、商店や企業の方、個人で家の前や近所の道でと様々な形で地域が見守られています。大磯地区地域学校協働活動では、ゆるくつながり地域で連携する「大磯地区見守りチーム」があります。チームという名前は、地域の各所で様々な見守り活動をしている皆さんをチームとなつてつながるようにと考えられた名前です。地域で連携することが目的ですので、情報の共有できる関係・様々な形で活動している方が他の方と相談や意見交換ができるようになっていきます。

定点見守りは顔見知りの始まり

「大磯地区見守りチーム」に登録されている地域の方は地域の至る所で定点見守りの活動をされています。

定点見守りとは、決まった場所で見守り・声かけをすることです。

ある場所の定点見守りで、子ども達の横断歩道を渡る手伝いをしていると、挨拶をたくさんの子どもがしてくれ、通り過ぎる大人もつられるように挨拶をしてくれます。急いでいる様子のドライバーの方もなぜか会釈をしながらゆっくりと交差点を進んでくれます。車を待たせては悪いと思い子ども達を「おいで」と急かすと、大きなランドセルを揺らしながら走ったり早歩き。大きな通りではありませんが、朝の忙しい交差点が優しさのあるゆっくりとした交差点に感じました。お互い名前も知りませんが、顔はよく知っているという関係を定点見守りでは作れるのだと実感した出来事でした。

大磯地区見守りチームで地域と連携した活動として、4月に大磯小学校の先生と大磯地区見守りチームで学校の指定している通学路を歩いて、こどもが登下校するのに危ないと感じる所を確認をしました。大磯地区見守りチームからの参加者は4名でしたが、連携していくひとつの形になれるようにしていきたいと思います。

またPTAとも連携して登下校の道や地域の様子について、PTAに保護者アンケートを依頼しました。保護者からあがった情報と4月の情報を学校・PTA・大磯地区見守りチームで意見交換し共有しました。あがった情報は全部で44件でした。

意見交換では、大磯地区見守りチームに参加している区長さんより保護者の知らない情報を聞いたり、区長さんも保護者の事情を聞いたり、会って話すことは大事なことと感じました。

おまけの話ですが、先生と一緒に町内を歩いていると、今日は何をしているの？と話しかけられ、先生と町民の方とその場で談笑となったり、先生方もほっこりしていました。



登下校でこどもが通る道の情報を共有しました

コーディネートされた地域学校協働活動

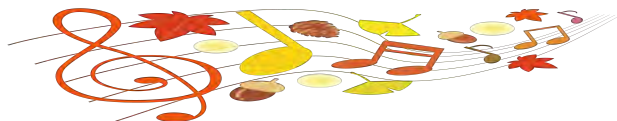
今年の活動としては、

- ・大磯小学校での地域の方による全校生徒への10分講話
「人との関わり合い、やさしさがテーマ」
- ・職業体験のため地域企業の方を大磯小学校、大磯中学校にご紹介
- ・長く続く読み聞かせ団体と小学校との連絡調整
- ・夏休みに大磯幼稚園で大磯中学校の生徒がふれあい体験する企画
- ・大磯中学校演劇部が大磯幼稚園で絵本朗読や演技力を活かしたゲームで園児とふれあい体験
- ・大磯地区見守りチーム 他

読み聞かせの様子



本年度の校長先生・園長先生



大磯中学校 櫻井英明校長先生

毎朝校門の前で生徒に声を掛け迎えている櫻井校長先生です。自主自立を掲げる大磯中学校らしい学校を若い職員・ベテラン職員とつくっています。

大磯小学校 成田麻紀校長先生

トントントンと校長室のドアをたたく小さなかわいらしい児童を優しい声で「おはよう♡」と歩み寄る成田校長先生です。校長室は誰でもトントントンができるやさしい部屋です。

大磯幼稚園 原田ゆう子園長先生

「ゆうこせんせい」「ゆう子先生」園児だけでなく保護者からも声がかかるベテラン原田園長先生。にこにこしながらも、ときには全力のパフォーマンスも！もう一人のベテラン宮代副園長と唯一無二の園をつくっています。

各学校、園の公式ホームページ携帯用 QR コード

大磯中学校 <https://oiso-jh.oiso.andteacher.jp/>

大磯小学校 <https://oiso-es.oiso.andteacher.jp/>

大磯幼稚園 <https://www.town.oiso.kanagawa.jp/index.html>

大磯小学校



携帯用 QR コード

大磯中学校



携帯用 QR コード

大磯町のHPより
幼稚園→施設案内→大磯幼稚園

学校運営協議会

と

コミュニティスクール

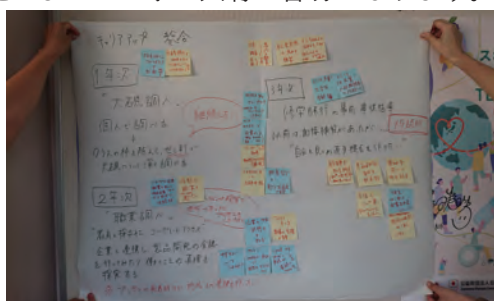
大磯地区の各学校・園には学校運営協議会が設置されています。学校運営協議会で学校運営について意見交換や提案などが協議されています。学校運営協議会で協議の対象になり活動がより可視化された事業です。

- ・地域見守りチーム
- ・読み聞かせチーム
- ・総合授業での地域企業の方をアテンド

今までも活動があった事業ですが、団体ごとに学校とやりとりがあったり、活動の有無も団体次第でした。学校運営協議会にあげるにより、事業の継続や必要なことの絞り込みなどが協議され新たに継続できる仕組みなどが提案・実行できるようになっています。

大磯地区の学校運営協議会の様子

幼稚園、小学校、中学校の協議会でブレインストーミングという手法を使った会議が行われています。ブレインストーミングではポストイットを使う熟議がよく行われ、会議の中で自由にアイデアを出せたり、ひとりひとり気兼ねなく意見を出せます、テーマが明確になるので意見をまとめる事と共有が容易になります。



大磯町では学校運営協議会制度（コミュニティスクール）導入について平成 30 年より地域の様々な団体の代表、学校、保護者等により研究・検討を重ね推進をしてきました。令和 3 年に広く周知が図られ、令和 4 年度に町内園・学校に導入され今に至ります。これからは地域の仕組み作りと進んでいきます。

文科省HPより引用

地域学校協働本部とは、多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制として、平成 27 年の中央教育審議会の答申で提言されたものです。

連携の体制は様々な形態があり得るため、地域学校協働本部について法律上の規定はありませんが、改正後の社会教育法の第 5 条及び第 6 条の規定では、教育委員会が地域学校協働活動の機会を提供するに当たって、地域住民等と学校の連携協力体制の整備が求められており、地域学校協働本部の整備のための支援もその取組の一つです。地域学校協働本部の整備にあたっては、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」を推進し、「総合化・ネットワーク化」へと発展させていくことを前提とした上で

1. コーディネート機能
2. 多様な活動
(より多くの地域住民等の参画による多様な地域学校協働活動の実施)
3. 継続的な活動
(地域学校協働活動の継続的・安定的実施)

の 3 要素を必須とすることが重要です。

文部科学省HPの「学校と地域でつくる学びの未来」参照